第87回企画展

みの(蓑)とけら(螻)

～雨よけ・日よけ・背負う・防寒・敷き物・晴着　その汎用性～

久方の　雨のふる日を　我が門に
にの笠きずて　きたる人や誰

万葉集　十二巻　作者未詳

令和4年1月4日(火)～6月30日(木)

岩手県立農業ふれあい公園　農業科学博物館

「みの(蓑)」や「けら(螻)」は、ワラ(藁)、カヤ(茅)、スゲ(菅)、シナノキ(科の木)など植物の茎や皮、葉などを用いて作った、主に雨具のことです。

雨よけのほか、日よけ、防寒、衣服が泥や水で汚れるのを防ぐためにも着用しました。また、荷物を背負う時に用いてクッションの役割も果たしたほか、農作業の合間の休憩時には野外で座る時の敷き物にもなり、時には晴着として外出しました。

みの帽子や笠、胸当てなどと併せて着用するもの、防寒用にみのと帽子が一体化したものなど、変化に富んでいます。材料のみならずその編み方、作り手や地方によってもさまざまな特徴があり、こった装飾のものまで存在します。

昔の雨具は、みのと笠が主体で、主に雨の多い梅雨時や冬の期間の仕事として、各自が手作りをしていました。

現在では、雨具の進化により、日常生活で目にすることはありませんが、岩手県内に残っているナモミやスネカなど小正月の来訪神行事の際には必ず着用されており、伝統文化として現代に受け継がれています。

今回の企画展では、今ではなかなか目に触れることがない、当館で保存している多くのみのやけらを紹介します。

けらをまとった姿

みの(表)

みの(裏)

岩手県立農業ふれあい公園

農　業　科　学　博　物　館

北上市飯豊 3-110　TEL:0197-68-3975

開館時間／9:00～16:30(入館は16:00まで)

休 館 日／月曜日(月曜日が祝日の場合は直後の平日)

入 館 料／一般300円　学生140円　高校生以下は無料　団体割引等(20名以上)があります。
障害者手帳などの交付を受けている方及び介護サービス事業などで入館される場合は入館料が無料になります。

駐 車 場／大型バス12台　普通車240台　身障者専用5台